

衣形圖說 農事部 二

特別
三 1
2442
2



門 1
2442
卷 2

小野岡
氏藏書

城形圖說卷之二
田地目錄

附步法

里程

土宜

隱田

畔畦

白田

畦田

鹵田

附畎
附暇

附沙田

城形圖說卷之二

昭和十八年
一月二十七日
陸本

成形圖說卷之二

農事部 田地類

多登古呂

書紀○即田地也東鑑ハ田所ト何モ橋次為茂賜富士郡田所職ト又太平記伯耆卷曰執事田所

登古とのいづつ苗床床仍多と登古呂と罷て

志呂

同 古奈多 和名鈔水田の字と訓め里又和田ハ仁義多熟田の事なり説文暉音柔和田也

田地

書禹貢○五篇田土也地也説文樹穀曰田象四口十阡陌之制也正韻土已耕曰田又耕治之謂田

蕃名シイストラント

塩土傳ハ田ハ平也一説ハ平ハ田開の義より也ハと

按子田ハ存水田と主としてハ故子水田と多と訓

陸田と波多と訓ハ孝徳紀子分割水陸とも又民部式子

陸田水田相交授之とあり是今の田畑支配あり○志呂
 てふふとハ舊事紀ハ將田地佃とありふと始ふや神功
 卷子神田とと又和名鈔ハ淡路國神稻郷とも何處ハ並
 子後ハ神田神戸圭田などいふものあり幣代神代の謂
 たり圭田武藏風土記麻通利の田と歟後仁德紀田と壑
 あり訓漢の圭田社田とおれ
 ありと四萬餘頃とも孝德紀兼并數萬頃田などいふハ頃
 と志呂と訓ふとの始あり和訓葉ハ土左國五十餘萬
 頃海に没せしふと書紀ハ見え土佐傳ふる所何ぞか
 一十町といへり十町即一萬石の地にて吾川郡あり
 たり是代の義るるべし和名鈔ハ頃今之法六町六段二

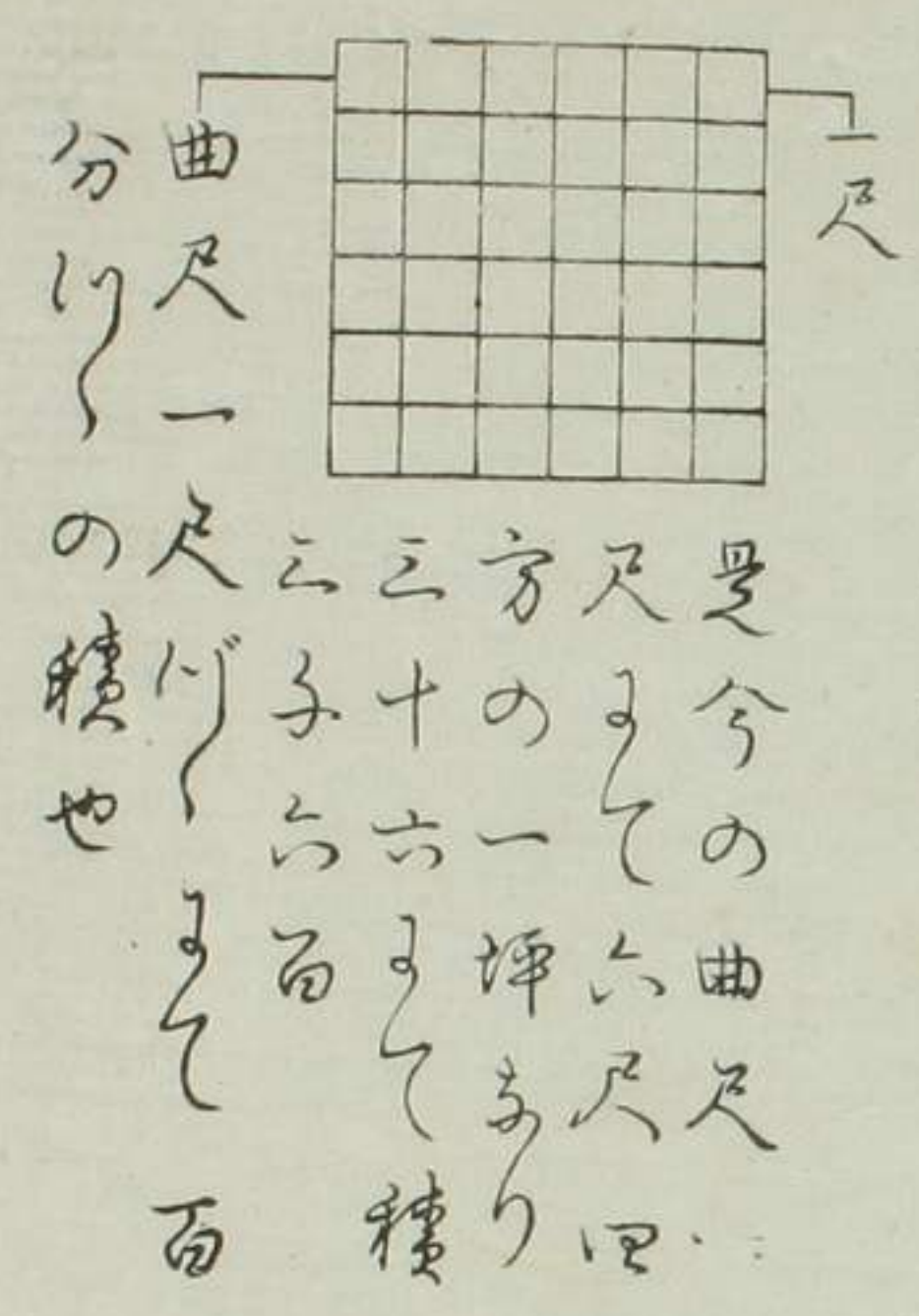
百四十歩と見えたり畝百為頃とふちがたり蓋同朝廷
 より名代子代とふこと始れたる其代ハ太子諸
 王とハハ皇后の為ハ食封と賜後ハ其陵邑の守田
 たり元らまゝとは見えぬ守田の事令是神廟何は諸王
 等より海濱の支用供給の代とて田稻若干と封せら
 まゝの名とぞ見えたり又歌ハ十代田五百代小田など
 詠るハ田の物成の成實ハ就名ありとて今云定代ふ
 是式曰代頭也三十六歩為一段頭一段為二町頭頭ハ
 五六とる頭ハ第一代七坪一
 二代十四坪二
 三代廿一
 坪三尺
 四代廿八坪四
 五代三十六坪
 六代四十三
 坪六寸

二寸一畝 七代五十坪二尺四
 七步余 九代六十四坪四尺八
 十代七十二坪
 廿代百四十
 卅代二百十六
 四十代二百八十八
 五十代三百六十
 段也 右の刻りてハ五十代ハ三百六十坪より一段也
 百代ハ七百廿坪二段也 五百代ハ三千六百坪十段也
 千代ハ七千二百坪廿段也 五千代ハ三万六千坪百
 段也 一万代ハ七万二千坪二百段也 五万代ハ三十
 六万坪千段也 十万代ハ七十二万坪二千段也 五十
 万代三百六十万坪万段也 今田家東代西代北代など
 古事記傳曰代とは崇神紀倭國之物實といふ實あり何

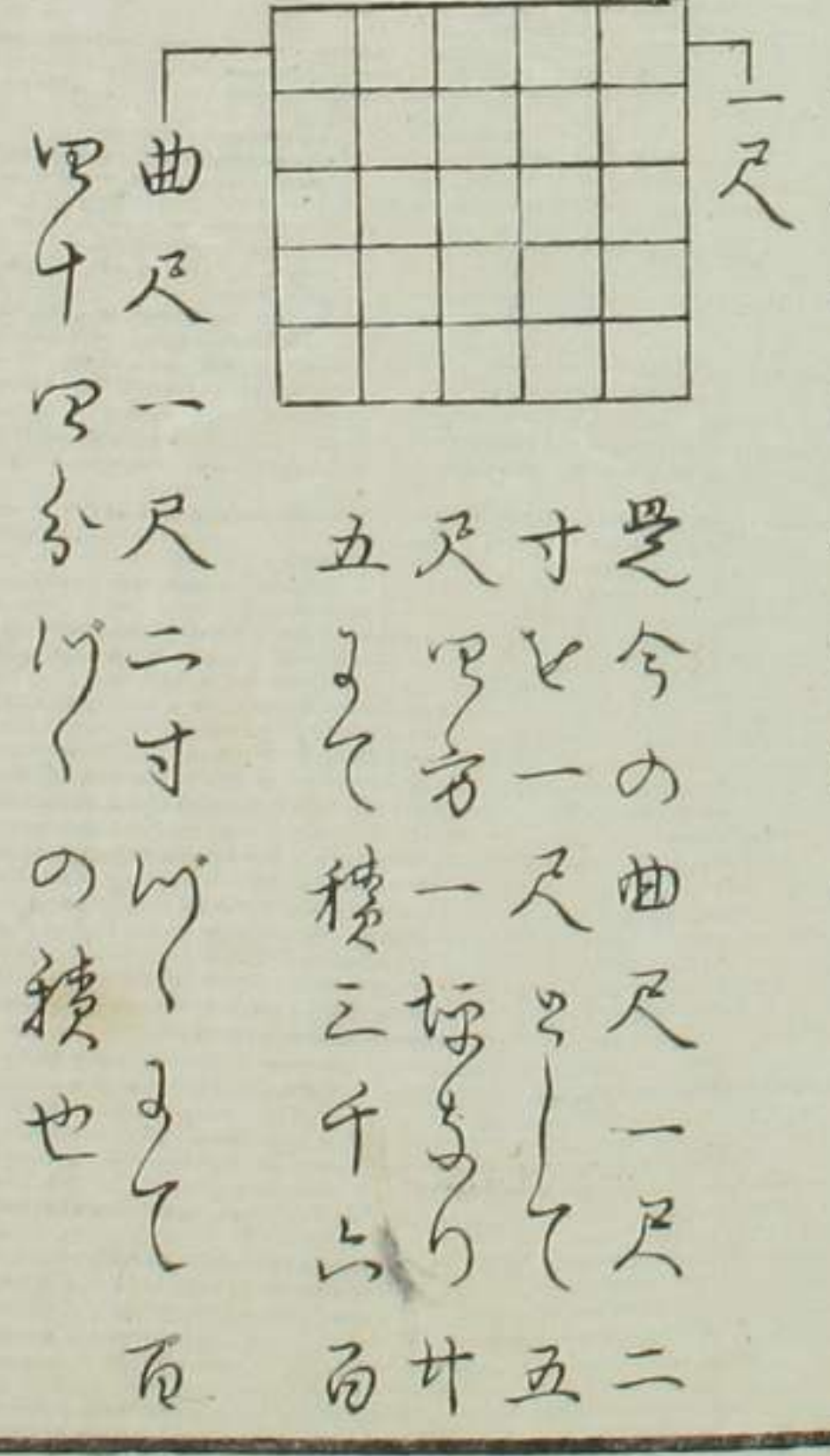
よまはるる物と指て云今世は代物といふ言此より一里
 其と現まるる物と云ふふて灼然まど志呂と同一
 薩摩國新田宮藏弘安四年閏七月執達狀平代桑代作
 御年貢以下と云々之に此平代桑代其田の物實と云
 孝徳紀曰凡田長三十步廣十二步為段十段為町淡海公
 令曰度地五尺為步三百步為里三代格曰以大方六尺為
 步拾芥抄曰凡田以方六尺為一步といふり此令の一尺
 ハ今の曲尺よりハ一尺二寸よりあつたそのむら字方と
 一歩といふるといふ格の大方六尺ハ今の曲尺一尺より
 云大といふ量地尺の事也故に五尺五寸の不同あり
 ども地は度地の実ありしこの五尺五寸の事ありし制大
 小尺ありしと云々は度地制畧考

能之と辨せり或問田令集解古記曰雜令度地以五尺為步
 又和銅六年二月十九日格其度地以六尺為步者未知令
 格之趣并段積等改易之義答曰令以五尺為步者是高麗
 法曰為度地令使而尺作長大以二百五十步為段者亦是
 高麗術以高麗五尺准今尺大六尺相當故格云以六尺為
 步者則是令五尺內積步改名六尺積步耳其於地无所損
 益也書紀通證曰中古之制方六尺五寸為一步即一間あり
 天正中復用六尺蓋準古五尺中古六尺五寸と云事流よ
 り始りし也按よ田割せ六尺五寸とせしと豊太周の
 定よ也天正年中復改と何る復の字證よべし上世よ
 の田割よて一町三子らる坪の積あり今時五六の積よ
 改て三子坪と一町とて凡本邦の田制町段畝歩分厘
 の次第あり古今田制別畫圖をのぶし

六尺一坪和銅の制也



五尺一坪令の制也



坪ハ即歩ありて方六尺なり今の席二帖敷地と一坪と
 呼り坪ハ和字なりと字書よハ平也と云ゆ或曰評の省也坪
 書紀よハ一部といはれしと云ゆ後屋よいし坪
 とは一局の界坪ありと云ふ禁裏の局房又桐壺雷壺の
 名のよと云後移物格よ歳のよと云に始りしと云ふ

人としておるせむふくは壺オホくハとのこみかうて
 ひすとさめのはいくとつあもとくー又鳥逐曲トリオヒマは西田
 をよ千町東田とよ千町坪ツボのふかの所乃行とほろく壺
 爾雅ニ宮中術謂之壺陸奥國宮城郡坪碑の事風土記ハ
 尺ハえハ和訓栞曰つおとつハハ此壺ハ人夫と量る坪
 ありて沙陣ハ法御坪遠侍ハどの名ありとい朝野羣載ハ
 つり見おて坪ハ界局の名とふと志る壺ハ朝野羣載ハ
 田坪付の事阿ハ年中行事歌合不堪佃田奏とよめ歌歌
 又此秋ハ千町のおしぬ敷とつろふハぬ坪附
 とお坪つけとつろハ諸國ハ當年ハの植地ハ儀ハなる
 ざふ所と書シ注シして大臣ハ献るを坪附帳といつり事ハ
 江家次第ハよくと一〇歩亦阿由美と称ハおハ質素ハ

て結縄の段ハ書紀ハ以千尋梯ハ結為百八十ハ繩ハ也
 或ハ足と擧て土田の遠近ハ狭と量る四ハび足と擧て六
 尺ハ完るるり因て四足目ハハ三ハび足と擧て六尺
 となれば是ハも幾足と計つて千萬歩といつとと誤らば
 海東諸國記ハ日本計田町段ハ其法ハ以中人平歩ハ兩足相距為
 一歩ハ六十五歩ハ為一段ハ十段ハ為一町ハ一段準我五十ハ頃ハと蓋
 是周歩ハ以てつハ春秋宣十五年ハ秋初ハ稅ハ畝ハ杜註ハ公田之
 法ハ十取ハ其一ハ今又履ハ其餘ハ畝ハ復ハ十收ハ其一ハ通鑑ハ宋紀ハ及其
 既種ハ有司ハ履ハ畝ハ増ハ之ハ書叙指南ハ云親ハ按行ハ田ハ曰ハ田ハ地ハの
 履ハ畝ハ履ハ畝ハハ足數と踏ハ畝ハ段と定ハむハかハとハなるハ○田ハ地ハの
 長短ハ廣狭ハよハまハぐハいハくハ幾ハ區ハの名目ハと立てハ或ハ十歩ハと一
 區ハと一二十歩ハと一區ハと一畝ハ以上ハと一區ハと一畝ハ間
 畦ハの中ハとして一區ハとよる等の差別ハありハ世麻知ハは畝間

道チ少く畝町マと通せる凡チ古ハ田法畝マとてく數ハ區ハ畝
 又満チざれども各其畝の内チて田乃界チくくせふを以畝
 間道マとてふもふべし
紀勝之書云稻種春凍解時耕反其
 土種稻區不欲大大則水淺深不遍
 人謂田丘為田區又區田の法農政全書の圖説ニ詳也
 一畝ハ三十歩なるも六十枚敷チて田段歩チを以て田
 量チ大化チし始チまるも古者ハ幾代幾畝幾毛等チを以て計
 ふなり日本總國風土記ニ假粟幾九幾畝幾字田チ宇ハ蓋
畧或
 作字幾圍田幾毛幾文など何ふとて知べし今俗チ
 一毛取チ二毛取チなどい或ハ一畝と一升チ蔭チるどもハ其
 穀チと蔭チおと一升チなりチるきと以てなり畝と世と訓チるハ

阿世の畧といふ

一畝ハ十畝なるも即チニ百坪チあり七間チ一尺一寸四方也
 といつと一畝チは若ハ一畝三チ百六十歩チなるも越後國下
 糸水原字乃村は一チ反チなるも十歩チなり一チ畝チ蓋中昔の田
 割チのまチあチぶし○幾多チは寸咫チ乃割義即段チあり々幾
 坐チとチふチりチ回チし寸咫チは尚チ一チきれチありチらチふチおチく
 候チとチ等チ級チ乃増チ加チふチとチ持チまチあチ向チくチ持チ寸チよチるチ咫チと
と尋チは升チふがチおチさしチ候チ漢チは幾チきチの辭チありチ階チ段チと幾
 坐チとチ尋チぶチとおチれし○段チ乃字俗チり反チ乃字チを用チ書紀通
 證チ改チ草書チ乃訛チ也古文書チ候と取チは地チ子強チ倉チ圖チ費チ守チ藏チ記

元亨二年河内進宮と段反の二字竝一用より拾芥鈔と
 一段為一町頭唐史朱仁軌誨子弟云終身讓畔不失一段
 一町八十段あり是即三千坪として去六十町は横五十
 間也此五十間の中と十間八道は取守央と十間を右
 と田留廿間りの割ありと十間の道割をして細く所隔畔
 路を敷と此十間の敷とハえりして割取ありいづれと
 十間よりおよいおとぬきより又拾芥鈔と十段為一町
 積凡厥一町積三千六百歩也當時猶此町積ありし也
 ○麻知は間道小て即町也區訓て町町と蓋間道ハ田中
 往返を爲さの大界と使故に此方の田敷町小てりて

極と使禱の間道と左右脚の界なり説文田踐處曰町○
集韻田畝謂之町○字彙町田區畔埒又左傳町原
 坊賈達謂原坊之地九夫為町三町而當一井也按今俗
 畝町ハ訓と以し町段ハ字と以呼つり而歩ハ即亦坪な
 ぶとくととと使宮中市上の巷陌と呼て町とつくとま
 小田町の義なり后町采女町ふどつとありて町のちい
 さい所とハ小町とつと小野の小町ハ出羽郡司小野良
 實ガ女とて宮中の小町ふふん在るれハ呼つり左の草
 紙紙紙小町紙り紙み紙め紙よく紙老紙お紙と紙ら紙へ紙て紙ふ紙ど紙つ紙め紙と紙ハ紙た紙か紙と紙は紙解
大とくととと使宮中市上の巷陌と呼て町とつくとま
さい又市防と称を故と比屋間○田賦集曰古の田券ハ一
町幾町くと間道何ると也
 段と十と分て其一と一と記し二と川と記し三と川と
 記し四と川と記し五とは一と記し六と下と記し七と
 下と記し八と下と記し九と下と記し十と記し十一と
 廣さなる後女と及て一と一畝川と二畝と號とくは是

三百六十歩一段なまばりハ三十六歩リハ七十二歩分
 不履一脈ハ是ノ準ム今按ヨリ川ハ即太古ノ在テ一
 二三の文字ナリ後ニ於テ算置の畫トク釋紀大藏省御
 書中有神代字六七枚許トシム其の川乃おとぎ古の三
 字ありと瓊矛拾遺ニ云々いハハ未書契あり
 どののりり五音字母あり其字左の如し
 内枚岡泡輪神社の藏土笥ニ鑿トシテ天名地鎮トシ
 其讀法ハ粗舊事
 其經ニ出ヤリ

親 人 兒 倫 元 因 心 顯
 親 人 兒 倫 元 因 心 顯
 親 人 兒 倫 元 因 心 顯
 親 人 兒 倫 元 因 心 顯
 親 人 兒 倫 元 因 心 顯

新井氏曰所謂神代文字者凡五或有其字不可讀者或有
 其體不可辨者或如科斗書者或有如鳥篆者天武之
 世更造新字四十四卷其體如梵書又有肥人書薩人書而
 肥人書一文字昂今猶有通用者古者列國各有其字而異
 其制又曰一文字昂今猶有通用者古者列國各有其字而異
 兆猶卦之有文也今按ニ阿奈以知ハ此等の中の一體耳

子リ 鍊 私 女 理 攻 一 八
 忍 盜 蠶 空 絶 二 九
 君 勿 績 照 欲 三 十
 王 男 織 法 我 四 百
 豐 田 家 守 多 刪 五 千
 位 畠 鏡 進 六 万
 臣 野 榮 七 億

成形圖說卷之二

十

或曰伊勢より八田一段より三十束州と稱す是は一所三百束より十五石とあり小田より中野より一又三越奥州北邊の圃より田舎を計て何州と云ふ民の言を録て畿子州幾万州とあり小田四百里と一及と云是は百州より一畝二石と得たり但上下田より不同ありといへり○西土の畝率を考ふ唐虞夏の三代ハ六尺一步といへり魯般尺の高ハ五尺即魯般尺あり周ハ八尺魯般尺の五分三毛余といへり王制云古者以周尺八尺為步今以周尺六尺四寸為步陳澧注古者八寸為尺以周尺八尺為步則有六尺四寸今以周尺六尺四寸為步則一步有五十二寸是今歩古比歩馬歩制出一尺二寸八分然と云王制ハ蓋漢儒の案と云

所本文及疏義等皆誤あり原發揮の辨しぬるは此は復言也漢志云六尺為步百步為畝或作畝後漢趙氏云今以二百四十步為畝古百畝當今之四十一畝按趙氏が説ハ秦孝公の制也宋程氏云古者百畝止當今之四十畝今之百畝當古之二百五十畝金仁山云古所謂畝其廣六尺長六百尺是為一畝古者二畝半當今一畝十步司馬法云一舉足曰跬跬三尺兩舉足曰步步六尺是ハ人の左右の足と云ふ一歩と云ふ尺長くありとの六尺ハ人の一步よりありて二尺よりハ梁と云故に唐六典より凡天下之田五尺為步二百四十步為畝百畝為頃制度通曰町ハ唐の頃より準し段ハ唐の畝

と準して廣狹あり右の百歩ハ々の四十一歩ありて一
頃ハ此方此五町七段二畝第々今按レ和名鈔ニ頃今
之法六町六段二百十四歩とありとレ正しとレさレべし既ニ
ありあやり律原發揮曰一夫所受百畝之田 本邦今の
三町七畝三步餘ニあり井田九百畝ハ 本邦今の二十
七町六段四畝三步餘ニあり是明ニ乃里法ニ依テ筭ル也
也獻可録ニ司馬法ニ歩ニ而テ一畝トなりハ一畝ハ百坪
百歩ハ一子坪ニあり歩ハニ子坪九百歩ハ九子坪ト是
昂井田の地ニあり是ハ司馬法のニの畝率トしてレ是
れ々の田制ニあり今按レ周田百畝ハ斯方の田ニあり

て二町四段二畝廿一步餘リれハ九百畝ハ斯方の田ニ
あり廿一町八段四畝十六歩あり然レとも井田の地ニあり
夏殷周のニ代各同ニありレは井地の所ニ辨減セ
りてレ終ルべし續文献通考ニ云ニ金之田制量田ニ以テ營造尺
五尺為歩闊一步長二百四十歩為畝百畝為頃今按レ子即
唐六典の
歩法ト令荒政要覽角地法ニ云ニ一畝分為四角每角六十歩
くレ同シ也今清國の畝率トありニ自方一弓ト一歩トあり一弓トあり
ハ昂丈量弓尺の長トありて此方の歩尺五尺五寸トあり二
百四十歩ト一畝トあり此方の田法ニありて五畝七分二厘
七毛八絲有奇トありレは清の一畝トありハ 本邦

里道程の始と終今ハ廿里以下十六里以上は大郡
十二里以上ハ上郡 八里以上十一里迄ハ中郡 四
里以上七里迄ハ下郡 二里以上三里迄ハ小郡と云
いつり拾芥鈔曰卅六町為一里卅六里為條條起從北行
於南限卅六條里起從西行於東限卅六里町始良終乾と
條ハ今の鄉村ハ東條西條と云ふハ小く里路云十六町
と一里と云ふ是始と云ふハ一里の五町一里と云ハ
五町四方田地の制あり奥州多賀碑令式風土記等
の記も所是也按古事記ハ船の餘材と云琴に似て
其音響于七里と云この七里五町一里ありてハ今

の一里ハ一町是らざれば七里の中央ハ居て四方ハ
と八町七段許あり又東鑑ハ是利又太郎忠綱ハ呼聲
坂東路聞于四十里四十里ハ今の五里二十町計されハ
五里の中央より四方ハ一里十四町と云ふといふ
事ハ太平記新田義貞の夢状と云ふ京師より濃倉まで
の路程と載て八百里とあり五町一里の八百里ハ今の
六十里ハ町ありと云ハ相模の七里濱上總乃九十九
里濱と云ふ故址と云ふ
本藩大隅福山御七里原又
三十六町為一里と云町四方田地の制ありてハ一の
五町ハ量地尺長されハ後の五町と云ふハ相模し因て

むり一里ハ今の方町といふところの傍へあり按
 仁徳紀四十一年春三月遣紀角宿禰於百濟始分國郡
 場具錄郷土所出又天武紀十二年諸王五位伊勢王等巡
 行天下限分諸國之境堺といひ凡古の時東西南北と極
 谷地形と度は四海と甄て天下の邦域と記し道里遠近
 の碑と建ら後一と國史に見えくれども當時の碑文
 今不残るその僅も東陸一二は過ざれば其始る所未だ
 推多し後續紀限伊勢大神宮之界樹標といふハ即今の
 界木也經國大典云東海諸國用日本里數其十里准我國
 四十里也信長記云天文九年冬將軍家より諸國へ仰有

て四十町と一里とし里塚乃上は松と櫛と植とあり
 已奠陰逸史曰慶長九年二月下令東海東山北陸三道每
 里置塚既而西南亦皆依其法云今里塚は櫛と植とあり
 行旅の準望庇蔭の便りて此等のより既後紀は道邊之
 木夏坐蔭為休息處といひて久しきよりやえり今是
 と並樹と云漢みて街樾道樾と云べし北史は韋孝寬
為雍州刺史先
是路側一里置一土塚自孝寬臨州當塚處植槐木代之行
旅得庇蔭周文後見之曰豈得一州獨爾當天下同之於是
分諸州道路一里植一木二海東諸國記云日本里數を
里植二木百里植五木焉
 擧て其一里准我國十里と是五十町一里といふ所あり
 孝徳紀五十戸為里と始りや慶長九年より定て三十六

町と以一里と以即六十間にして三百九十尺也或又六
 町四十町四十八町伊勢路の古五十町七十二町山陽道
の古と一里とと處所異同有りとも西土の里歩と考
 周ー里ハ 本邦今四町四十七歩有奇あり 一歩ハ今五
 尺七寸五分
 有秦漢一里ハ 本邦今三町三十五歩五尺三寸有奇か
奇 一歩今四尺三寸一唐一里ハ 本邦今四町十歩あり
 分七厘七毫八糸
 明一里百八十八 本邦今五町也 是明ハ五尺と一歩と
 三百六十歩の一里と
明の度地尺の銅尺ハ 本邦の曲尺と同寸なり因千
 八百尺と 本邦の六尺とて刻ハ三百間とす又六十
 間とて刻ハ五明十里一尺ハ 本邦今一里十四町也 是
 町とす也 一町ハ千尺と六尺一箇とて刻ハ二千間とす又
 十間の一町と刻ハ五十町とす又千尺と六尺一箇とて刻ハ
 十間の一町と刻ハ五十町とす又千尺と六尺一箇とて刻ハ

除く明百里十八 本邦今十三里卅二町也 算法 本邦
 同上
 一里一万二千九 八明七里七十二歩也 是一万二千九百
 尺一歩とて刻ハ二子五百九十二歩とす 本邦十里二十
 万九尺 明七十二里也 本邦百里百二十九 明七百二十
 里也 本邦千里明七千二百里也 清一里一千九百 本
 邦今五町三十間也 是清の歩弓ハ 本邦曲尺五尺五寸
 尺五寸也この歩弓と考ハ清の清十里一尺ハ九寸
 二厘とすハ千九百八十尺也 清十里一尺ハ九寸
 二厘とす 本邦
 一里十九町也 清の一尺ハ九寸と六尺とて刻ハ五
 町とす 清百里十九 本邦十五里
 と除き十町あり也 清千里百九十 本邦百五十二里廿八町也 本

邦一里 一万二千九百六十尺 八清六里百九十六步二尺也 是邦の一
里一万二千九百六十尺と清の五尺五寸と刻ハ二子
三百五十六步二尺とあるとらるる六十歩の一里とて
也 本邦十里ハ清六十五里百六十三步三尺五寸也

本邦百里ハ清六百五十四里百九十六步二尺也武備志

日本道里と載て名十里而有百里とありハ此大敷と

考 風俗通云一里三百六十步公羊傳註疏三百步輟耕錄二百四十步是 本邦里

數の一里 少してハ七千餘步也又天竺より由旬と云ハ智度論云由旬大者八十里中者六十里下者四十里名義集云印度國俗乃三十里今本邦里數と又按清地理考海路更數論曰針家の説ハ水程ハ無里鋪只以更數定遠近耳一更天約早程六十里也と云つり是唐山舟人

の常ニ針簿ニ據リ諸所遠近ノ更數ト定テ航海の準則と爲すの術也此一更程六十里と 本邦の道程ハ約まば七里有奇ニ南より嘗元明の算書と閱とると凡一里乃長一百八十丈人歩ニ約て一千歩也と云々つり是ハ魯般尺と用るの數也 魯般尺一尺乃長ハ日本曲尺九寸一分六厘七毫有奇也 故子西土唐山の一里ハ 日本の曲尺百六十五丈ニ南より 日本一里の總長千四百零四丈也 六尺五寸爲一間六十間 爲一町三十六町爲一里の積と云 於是右の百六十五丈ハ六十里と乘一九千九百丈と分は是と子四百零里と以除約とれば即唐山の一更ハ 日本ノ七里零五厘一毫ニ

絲八忽有奇かふふとと得也今唐山諸島の事を
 と測度乃標準と求む唯五島より長崎に到る更
 數及用針の方向等と詳に合參するのにおよび依據
 かりし唐船の長崎港に到る五島の南角より早癸
 針と用て約五更よりして收入しつゝ乃其直程と計し
 日本里數三十五六里の海路也是則一更七里餘を以
 て五更より距故より五七三十五里乃敷に符合せり
 常より五島よりして到る四十里也と云ふ然れども
 小艇より航行するの海路より唐船直行するの海路と
 おれ
 かし

土宜

蕃名フリユクトバーレント 豊 へツテゴロント 地 腴
 シカラプレラント 凶 土 マパゲルゴロント 瘠 地
 凡つみへの名田亦夥し天救田長田とらつはたお天
 子の御田也始て稲種を殖る齋時の良田小て伊勢の狭
 長田のぶとま是也狭くハ農事と佐とらふ是其張存
 了後名字より佐多長又出雲山と五十狭田より五十は
 田あどしつゝ
 濃尙の辭かれバ神田より名つけりけり風土記小
 ハ神須佐能衰命詔大須佐田小須佐田定給とけり須佐
 とハ尊の御号より係りしや神功卷より御心廣田御心長田

國と、寛大の心と稱し又吾田長屋笠狭之崎と云
 吾田ハ今の薩摩國小て笠狭ハ今加世田と呼ぶ地を吾
 田とは猶私田といふがたゞ去屋笠狭を長田狭田と
 おふしかりき 按佐々の佐ハ世と約る故に笠狭今加世
 長狭と云名 又天垣田ハ天子の御田故に垣して常田
 字尺多し 又天垣田ハ天子の御田故に垣して常田
 二分なり 萬葉ノ神々の法三田屋乃垣律田と詠め
 啖城下田也漢書啖垣 天安田 農業の便安なりとい天平
 食貨志田其宮墾地 天安田 今名字に安田あり 天平
 田ハ凸ふきの地と云ふ名字 天邑并田 田地廣大諸邑會
 按村の間乃田なるを 以上亦 日神の御田ハ一々霖旱
 名字ハ村田あり 以上亦 日神の御田ハ一々霖旱
 と經しつゝと損傷なきの良田といふり又素尊の始

荒びぬい一時は田何又天楸田 楸とハ本 天川依田 其地
 依り今の字治川をの田乃 天口鋭田と云 水の掛口 川依
 如く廣韻ニ曙 江河邊地 急なり 天田天
 田ハ水患多く口鋭田ハ旱害何ふの磽地なり夫天子の
 御田とは漢ハ一々ハ藉田なりといふものあり 東京賦
 子之藉 古ハ天子皇屬皆其田地何れ其得失美惡を以其
 田也 分の自ら然らしむることを示しあるより足るるを今
 おも田地は耕人の好悪より美田と云 莠田と云なる
 ことふて今も良耕人の治一田と云き耕人うけと云
 て耕せば上田と云下田と云なる何のわざと亦おれり
 又上田といふと教業と歴下田となり下田と

亦上田とがれりひう〜乃田地今ハ上中下の等大ニ変
 是乃て之程〜又本花開耶姫 天孫と本藩竹屋の
 宮里あて降誕ゆ〜ませ〜時收小定田號曰狹名田以其
 田稻釀天甜酒嘗之甜酒ハ古事記傳又古ハ味の旨物と
多糶といつり事並ニ延喜式姓氏録
 等ニ又用淨浪田稻為飯嘗之といふと何ぞ小定田
 ハトとなし〜稻を取つて今の大嘗會の縁起なる所謂
 誕生賀などいふ亦是より推輿り〜狹名田とハ後
 又真田と書りおと〜其稲を依ハ之農功といふ履中
紀ニ
 狹名來田藤津浪田とハ沼亦矣〜子辭めて沼弟びとの
 津命あり浪田ハ名田なり今阿多郡干町田間といふ所ニ

京田あといふ交名り〜其のまじり〜凡田ニ其の
 名と呼て字といふ西土モコシふてと田名と字稱といふり神
 武卷ニ皇師立詰之處謂猛田作城處曰城田僵屍枕臂處
 呼頼枕田とあるの類ハ生地後子開墾して遂ニ其田の
 字稱といふ也或曰豊前ふて字のこ〜とホノケ其後
とりの筑前ふて月穂又キと〜
 是より諸国皆屯田何ぞ所謂公穀正税の御田と也詳
 類聚国史屯田部ニ載る〜今諸州の地 延暦十六年以屯
 名ニ三田富田ふど〜其故址なり 延暦十六年以屯
 田稻賣與貧民以救之勸農也按字典兵耕曰屯田周禮有
屯部今曰屯田司○事物紀
 原屯田蓋起於漢 延喜の御時ニ屯田諸国正税の外ニ位
 武開西域之時也

田職田公麻田國造田賜田没官田口分田乘田何^レ並^ニ
輸^キ地^ノ子^シ田^ノと^シ自^ラ餘^カ皆^ク輸^キ租^ト田^ノ又^シ曰^ク神^ノ田^ノ射^ノ田^ノ健^ノ兒^ノ田^ノ
學校^ノ田^ノ諸^ノ衛^ノ射^ノ田^ノ左^ノ右^ノ馬^ノ寮^ノ田^ノ飼^ノ戸^ノ田^ノ賙^ノ急^ノ田^ノ勸^ノ學^ノ田^ノ典^ノ藥^ノ
寮^ノ田^ノ節^ノ婦^ノ田^ノ易^ノ田^ノ職^ノ寫^ノ戶^ノ田^ノ贅^ノ力^ノ婦^ノ女^ノ田^ノ博^ノ獨^ノ田^ノ船^ノ瀬^ノ功^ノ德^ノ
田^ノ造^ノ船^ノ瀬^ノ料^ノ田^ノ等^ノ並^ニ不^レ輸^キ租^ト田^ノ又^シ曰^ク乘^ノ田^ノ可^ク充^ク品^ノ位^ノ田^ノ以^テ全^ク町^ヲ給^フ之^ヲ又^シ
麻^ノ田^ノ等^ノハ^ハ輸^キ地^ノ子^シ田^ノ又^シ曰^ク乘^ノ田^ノ可^ク充^ク品^ノ位^ノ田^ノ以^テ全^ク町^ヲ給^フ之^ヲ又^シ
令^リ曰^ク功^ノ臣^ノ報^ル勞^ノ田^ノと^シり^ハ是^レ功^ノ勞^ノ所^ノ系^ノの^ノ人^ノに^テ賜^フ
ふ^レ田^ノふ^レ子^シ孫^ノ三^ノ代^ノを^シ傳^ヘて^シ三^ノ代^ノを^シ没^ス官^ノふ^レ返^シ上^ノ次^ノ也^{ナリ}
凡^ク功^ノ田^ノ大^ノ功^ノ世^々不^レ絶^ス上^ノ功^ノ傳^ヘ三^ノ世^ノ中^ノ功^ノ傳^ヘ二^ノ世^ノ下^ノ功^ノ傳^ヘ子^シ
と^シり^ハ又^シ不^レ輸^キ田^ノ何^レ不^レ輸^キ田^ノハ^ハ一^ノ人^ノ受^テ持^テ回^シ持^テせ^ル也^{ナリ}

分^ル田^ノ地^ノの^ノ事^ヲを^シる^ニし^テ田^ノ令^リ曰^ク凡^ク給^フ口^ノ分^ノ田^ノ者^ハ男^ノ二^ノ段^ノ女^ノ減^ス
三^ノ分^ノ之^ノ一^ノ五^ノ年^ノ以^テ下^ノ不^レ給^フ其^ノ地^ヲ有^リ寬^ク狹^ク者^ハ從^テ鄉^ノ土^ノ法^ノ易^ク田^ノ倍^ス
給^フ給^フ訖^テ具^ニ錄^シ町^ノ段^ノ及^シ四^ノ至^テ口^ノ分^ノ田^ノハ^ハ久^ク毛^ク天^ノと^シ訓^メり^テ音^ノ便^ス
なり^テ人^ノの^ノ口^ノ數^ノと^シり^ハ田^ノ減^ス班^シて^シ尊^ク卑^クふ^レる^ニ由^リて^シ受^ルる^ニ
り^テ食^ル賃^ヲ志^シ以^テ口^ノ受^テ田^ノ是^レなり^テ是^レじ^リ一^ノ人^ノと^シり^ハ各^ノ田^ノ
二^ノ段^ノと^シ渡^シされ^ルなり^テ鄉^ノ土^ノ法^ノに^テ有^リ餘^リる^ニも^ハの^ノと^シり^ハ
人^ノより^テ過^テて^シ田^ノと^シ受^テ取^ルる^ニも^ハの^ノと^シり^ハ又^シ易^ク田^ノと^シ
は^ハ何^レし^キ田^ノ地^ノな^レば^ハ二^ノ段^ノの^ノり^と加^ヘ給^フと^シり^ハ凡^クじ^リ
り^ハは^ハ歲^ノ々^ノ地^ノと^シ休^ムて^シ耕^ク種^クお^と常^ノの^ノお^となる^ニ建^テ武^ノ式^ノ
目^ノハ^ハ易^ク地^ノと^シり^ハお^と何^レ之^ノと^シ休^ム作^ルと^シり^ハ又^シ水^ノと^シ放^ス

又養と用まは成実多く用おられバ少きとの中田と
 次又淤泥ドクダおして常よ水儲ミヅヅケの地と下田と凡是早ハヤシ歳
 りは宜きごとくなまどと多く登らざ又陸種リキタ播ホク一が
 しくむ利益少き故あり下田の事と万葉より下田と
 云今名字又次田河也或曰俗は徒タテ為と下田と泥功ニドクと
きより出し徳也今按薩摩國新田宮藏建仁三年八月文
 献新田宮并五大院田肆拾町事依為沼間田追年不令満
 作仍為撫民所流行段別一斗五升代也あるは泥凡田地
 津の下田ゆゑ任郵の為段別と冠給しおとあり
 の位上と下ことハ位うごう使中と下と凡他人の力お
 けり申ハ上の出来とけりく下ハ申の出来方と取実
 おとらぬやうに依りおほすハ地チは習ふよハあしけ

他子の覚悟サトに在り一順位カ地と同様又出来タと行ま
 バ申下の田地ハ一入心と用て依り登り上下と位ハ替
 まごとえ来同一地おておかるもしく行きぬハ自由な
 ると上地と一用お届ぬハ村後ムラノチの田と位の下とと違
 バカと登りて水と引人一度り後ハ二度も入一ぬま
 バ下田と上田とるるいと違ハ已まくの勤るとけり
 ぬざりとも存りとも登り且上田ハ無多くて換ふれ
 とと上田ハ價高アツキされハ高よ登りて求るあり下田ハ
 無言の刻ツキと少くを入して地色直れハ取納ウケ計けりて
 百姓の勝手ハ下田下り田よりとつとご同様と惜ま

伏地色赤るやうにまじりておつる○稲田ハ土色黄赤
 く下ハ白埴の埴阿ふ地ハ最上なり又喜黒の赤土石
 まじり此地ハ石の精氣少く水澤と保ち膏腴又堅強土
 子栽一稿ハ米粒く実り版又炊て殖盛志と一倍小
 て合て久しく候倉に花して種どおし稲田の好地と候
 上田の土ハ多小滑て多小附ぬ希也是ハ膏阿くゆ急也
 即埴腴なる也書紀又宇古毛 知古由と訓下田の土ハ多小附く是ハ脂
 びさゆ急也又赤土ハ何色の土と称ぶくか、其田多
 はあな一即埴壇ハニノコトの類なり土體色黒、曰黒田、赤とあど出 雲風土記又尺えとく、名字又
 黒田又野土は灰と称ぶるやうに赤ぶるあり又さく

さくとして秋の田おと名阿りてぬりり尺巾あり即
 埴壇シメツキの類なり又野土おぬりぬとあり野土ハ輕くさ
 らさくとしてふるさぬ又尺巾なり赤土ハ上なる野土
 ハ下なる赤土は黒土砂赤土柴土とて色く阿り砂赤
 土小ハくろき岩阿り赤ろき小石の雜るるがら赤小
 石赤小砂の土ハいろくは外山谷間の田地阿りの取
 懸る形も多ぶくく分別とべし○未申小大山阿り
 て丑寅まじりく候變ハ兩年ハは殊に候と阿く稲
 筈たちてと喜穂四五分の一阿りてかあづば米がぬ
 とのかり若田も赤土赤一其上霜雪とよく降田畑共

阿一東南西に向ふは尤落一村落ハ丑寅又山
 と負ハ南面ふく村の行泉跡ハ流ハ所ハ田畑共
 又より田畑の他地ハ村落を以て漸くと他地を所ハ家
 と造るやうに精引を色一若他場ハ迂路ふど阿ハ直
 又たやうに道易ふ下警ハ安藝国の道路ハ直子肥
 後国の道路ハ迂り入馬の往来を計るよ俗よ言弓と弦
 との損益なり○村よも畑とくふくて百姓苦しむと
 阿ハは田の畦と廣くくくくセ菽荏苳等時くらぐよ
 治田の畔よと宜一固本録曰上田の地ハ白黒赤及ハ沙
 嵐色等の墳土又洲渚土の類なり出雲風土記ハ稻田之

勝とんえり中田ハ小礫雜る沙の色る等流土なり
 下田ハ塔垣強垣沙多土をり農書曰土地も又くよ多
 重祿とんえり中田ハ小礫雜る沙の色る等流土なり
 此の所係と糞と取所の乃路の遠也都邑の運道海に船
 此の便牛馬の荷物等よ出りまて宿舎なりなると上
 の村里とてむだハ内かくはりの多少を以て修上中
 下の位とてくりをを一今按周禮司稼辨五物九等備鑑
 類函云五物五地也
 九等謂駢剛赤緹云

陰田万葉集○又田稻と窓ととい一凡此間の人傷少
 也田ハ私田
 也と云り
 隠田鑑 隠地 坪移坪ナホレ

隱田 羨田 以上文獻通考羨田ハ何れも子と訓 隱租 經國雄畧 移坵 明律移坵換段
 蕃名不詳

凡校田して縄と引字と入るといふは民田の隱地と改めぬが為あり民部式曰凡隱首括出者主計寮載功過帳申省省押署進官得度除帳者移主稅寮不申省又家町日記に御領の百姓等乱逆より數年の年貢と寺内は隱し便ありふと見えり是と隱米と唱り又坪移といふはともいへば隱米おのきの無き田所と他のよき田よりよくまうつるといふ其罪亦隱田におれし古に所謂挿籤是なり人の田を奪ひ己が田札と立て相争ふといふ和訓

粟曰今の人此看場名牌ふどふと冒くといふなり 史金
 凡種田者立碑概於田側書某社某人於隱地の科律ハ和上社長以時點視碑概ハ即田札あり
 漢共二重より建武二記詐欺官私革事或以不知行之地稱當地行或冒名當給人号闕所掠賜之皆是朝議之煩諸國之奸職而由斯不可不誠予明律宗志は首隱田といふハ隱地の訴人といふなり 明律云如隱田二十畝歲該納米一石隱下五年該納五石皆徵入官此謂之依數徵納也○清律云凡欺隱田糧脫漏版籍者一畝至五畝笞四十每五畝加一等罪止杖一百又曰里長知而不舉與犯人同罪

阿 古事記 ○ 阿田畔也
 成形圖說卷之二 二十七



久呂和名 田乃界サカ 界サカ 嗟アハ

○畔說文畔田畔也○左傳為政如農之有畔○淮南子黃帝治天下田者不侵畔漁者不爭限

賜說文 田畔

○蕃名シケイテパツト

○阿ハ物備ハ分辞イミ 盟他等の如ク久呂ハ俗ニ物の邊郭
 久呂利トシ一洗ニ轉ルベク阿ハ古名ホク久
 呂ハ今名ナリ此ノハ田地自他ノ界申急田の畔ハ双
 方ノ中ニカケルモノナリト禁ルモノナリト生滋オヒ ンナリ
 ハ邊ホテ難刈キリハラ のニあり 後水尾帝大御歎マ阿ハ
 であハ山田の畔サカ ナリヤコトナリシタラシク言フヤ按
 二傳書阿ハ阿世の畧ありと注セシモノハ和名鈔ニ一

云何世ありとあり大よ人と注し国史畔の字皆
何とのと訓り延喜式上總国畔蒜郡何と又毀畔とあり
大とと潰界也涸水也と注きり是田邊の界あるゆゑこ
とと毀とて犯陵の眾とせしと今とせりて程あり
又史周紀耕者皆讓畔とあり畔は他人と他人との
田界のありとありバ邊側とてハなとと我田我田の爲
ふハ外界なるありとあり又田の界の交錯とありと
蛇手とあり

阿世書紀

田乃畦 阿夫志 沖繩土名蓋畔節あり畦は畔の中の間

○畦 音繩亦作埜塍塍和名鈔引唐韻稻田畦也稻田毛詩是是也 即水田なり 稻畦 杜子美詩集

○蕃名ベステキケンデルランデレイン

○阿世とは畔背の義とあり又間瀬と注せり凡水田

必畔何と畔の中縦横は畦と起るあり川の瀬何とを

右小流とわつらぶと俗は阿世道とあり洛あり書紀

曰春則填渠毀畔又秋穀已成則且以絡繩 纂疏曰且田以

我田也 田以為 絡讀て阿世とありと田畦 田以爲 ともあり

あや俗は凡物の交つらとあせとあぶとありと畦の田

間は交互とありとわ似とありとやとあり孝德紀は譬如三

絞之綱セウノツナ又天武紀テンブキに屯の字阿世アセと訓せし俗に布帛フキと織
 之の紡績イトと延て紐綜ヌイと作ナし左右に纏カセと交互イシホつたて阿
 古取コトと呼ぶる是字並に田畦タノキの文絡イミを何と相似イシホする由
 急イサふて畦ハたのましくが田の畦タノキハ急獲田イサの後ハ切筋キリ
 並ニて来春再度ニバンお起の時トキもぐまを閉ツミ並あり又一區セキチの内
 小コて水口ミヅグチの方と上畦ウエと下溝シノ溝ミ深フカく田タは注落カケを所トコロな
 れレバ淤泥ウツドロ何ナニつり動ウツともまマ田タ面ツラ隆タカく行ユクやと一
 方カタ隆タカなれば一ヒトおのつり切キりなり一區ヒトセキチの
 内ウチおて地面ツラ隆タカ夷ヒラあまマ水ミヅの浸ヒタる所均ヒラ一ヒトかハ水ミヅ廻マり
 めメるゆユ急イサ上畦ウエの方ハ深フカ三尺サンシツ計ヒキ鋤スキぎ共トモ土ツチとハ別ホカ所トコロに

運び跡アトには糞土クノツチ青草アヲと填ウツて壅ツツとし又竹タケ簣ササと編アミて菜ナ置オク
 大オホと河カハり是コトと置オキ簣ササといふ農政全書ノウセイゼンショに水ミヅ笮ササとあり是コト也

波多ハタ書紀シヨキ○即陸田リクノタか
 波多ハタ計ケイ也ヤ集解シツゲ曰イハレ玉篇タマヒ注ツ引ヒキ玉篇タマヒ曩ナシ耕コウ麥マク田タ布フ古事コト夜ヤ
 伊波多イハタ和名ワナ鈔シヨ○古毛コモ利リ集シツ乃良ノリ閑ヒラ田タ耕コウ筆ヒツおオあアらラふフ
 万葉マンヤク古今コノイマ等トナリ子コ謂イハレ義ギのノらラ
 大オホのノらラかカとトるルらラりリ
 白田ハクノタ陸田リクノタ以上イサナ和名ワナ鈔シヨ 畷ノケ音留ネリウ說文セツブン燒種シヤウシュウ也ヤ○和名ワナ鈔シヨ
 也ヤ火田ヒノタ白居ハクキ易詩イシ史シ征テイ魚イサ 畷ノケ引ヒキ唐韻タウオン火田ヒノタ也ヤ不フ耕コウ而ニ火ヒ種シュウ
 蕃名ハクナアアッツケルケル 火田ヒノタ戸ド税ゼ人ニ納ネ火田ヒノタ租ソ 畷ノケ引ヒキ唐韻タウオン火田ヒノタ也ヤ不フ耕コウ而ニ火ヒ種シュウ
 月ツキ畷ノケ田タ收シウ火ヒ米メ

波多波多計ハ陸田の惣稱水田子對ハ干田の義也
波比計ハ土毛の謂と注セシハ毛ハ生と通ハ辭アル
通音計ハ生植着に録して食
土毛ハ生植着に録して食
と計とハ轉也凡地みて可食の物生る所
とハ皆波多計と稱一里圍て書紀中ハ曠と波多とハ波
多該と又畝とハ苑とハ並に波多計とハ訓しアル類
聚國史ハ鎮祭高畠陵又延喜大學式ハ山城國久世郡畠
一町永為菜圃園地源氏談松風卷伊莊の田はくけあどい
ふの義ゆりあくげ空穂後藤原君者てうだふはあどの
方はとみのとともてきたるにつらきりぬる人うへ
下畑とをとりてはくけと化るあどあり一説ハ波多は

治田也古ハ墾き耕す波利と云ふにともむこハ西土
少てハ耕種と云ふの地ハ陸とも云ふ田といふと
くたとハ國什ふとハ藍畠麻畠と云ふと彼と云ハ
藍田麻田といつと云れし又易蒙引云西北方可種五
谷之地皆謂之田南方之人指有水種稻者為之江南の俗
ハ稻田と云ふ田と稱や凡いみしハ朝小陸田ハ多
く布とのとあり粟田豆田麻田園田と云ふ是也
是草葉
淺茅生といふと云れし麻田後ハ麻生と書又轉して麻
布と書るハ淺茅り園田は是園と云ふけ園のみと云
る相ハ火田の二合字あり漢語鈔火田野老傳云橫截
山作畠謂之截幡其先燒後耕謂之燒幡按ハ截幡燒幡の
幡ハ謂る葉書也

畠ハ白田也二合也也並ニ磨神などの字例あり和名
 鈔引續搜神記曰江南白田種豆白田一曰陸田又晉書傳
 玄傳云白田收至十餘斛水田收數十斛是白田ハ水田也
 何の沙あり文献通考云白田上田也○水經注名白田種白穀名赤田種赤穀今ハ
 水田ハあつて穀と種と畑と種し菜園と畠と字
 つむり一の畑とつむりのハ残る焼くハ山畑とあ
 りて焼畑ハ畠とあつて一ハ山林と伐開その跡の草葉と
 焚土と翻して粟豆とつむりと焼播とつむり肥後國五箇村と
おて木場稗とつむりと乃山林と新撰字鏡ハ不耕蒔と夜
 焼を分跡より、内の名あり
 伎麻伎又阿良麻伎とつむり劉禹錫畬田行ハ上山燒卧木

下種暖灰中とんえつる一ハ土ハ燃るそのあり其地草
 と四五寸計あ及び片端も火と放ばそ土の燃るおと
 とふぐり薪のおくくままでやる過て壤皆灰とつむり
 疏通て種と撒き焼く土即肥とつむり灰ハ火氣
 と焼くおつむりおのつるおのつる煖なる氣散ふく
 して土ハ和してハ温潤の生氣と存て掘ての肥養とつむり
 きのなり是亦火田と迫りされど燃土とつむりハ稀ニ有
 おつたり月令ハ火耕水耨とのふつり漢書云燒草下
 水種稻益生因悉芟去復下水灌水草死獨稻長所謂火耕
 水耨也是ハ物種と害と草と焼て根とをや一生草と

熱湯タケのい〜又ハ草と名ハおふて腐らかし或ハ毒
 とふなり又ハ耕火種並ハ廣東新語ハ見えりて諺ハ
 畠作ハ猫の額ヒタ田ヒタハ牛の額といふ古ハ畑ヒタとのハ
 水田より少く他とてふと申り畑ハ入草切届り
 されハ他ヒタおさび〜
詩ハ無田甫田惟莠驕々と志り也
 ども名田バくり乃地ハ耕人立りぬる故ハ三ッふして一
 ハ必畑と頒授さし又曰國慶ハ山海平地ともある
 と上と名田河〜くてと畑よし海客ても心考ふり互ハ
 凶豊ありて皆サマよるよふい〜かし

曾乃布 和名鈔○ 即圃園也 曾乃 古事記 宇良世 和訓栞後持を宇良と云ハ即

圃の轉なり ○ 枕草子云せもの家乃うしろあ〜畠
 かどつ〜のちと〜る〜う〜は〜ら〜ぬ〜木〜わ
 う立ていと楚グちみさしい〜い〜る〜是
 変の後ハ圃留子柗樹う〜る〜る〜あり
説文種菜曰圃○周禮園圃毓草木注
果菰曰圃園其樊又云澤藪曰圃田
 蕃名サアイラント

背野の義也後園と云ふとあり古語ハ背カヒと曾ソウと〜子シ萬
 葉ハ背カヒ向カヒふと縁カヒの布カヒハ田カヒ也俗ハ園カヒと書あり天
 武紀曰田園者不問公私皆不耕悉荒と蓋波多計ハ陸田
 の大者あり 徒枕草に陸田有字が庭れ徒ハ庭と云ふ
う庭ハ〜庭つとむ細通一ハ庭して皆畠に依りまると
凍けりき津みふしの地を〜つ〜らに〜ハ庭と云ふ
也今ハ庭と云ふ

宇禰書紀○
即畦也

宇奈冠辭

畦音攜考亦作鵜集韻菜畦○史記千畦薑韋昭
注畦猶隴○克己銘私為町畦注畦田隴也

蕃名アツクケルホーレンス

宇禰ハ殖根の義といへり一説ハ田根の轉也殖根ふど
いふとおれ一按ハ陸田の阿母あり田ハ阿母といふ園
ハ宇禰といふ木のりく別阿母又畝といふ宇禰といふ
ハ地の小高きふりて圃の壠畦と似たり書紀ハ畝丘宇
禰乎とんえりり曼水田の畦とハ各別なり爾雅畝丘注
丘有隴界如田畝釋名畝丘丘體滿一畝之地也○詩南東

其畝朱注畝壟也王安石云畝大抵以南為正故曰南畝

宇奈天和名鈔○
即畛也

畛音軫正字通井田間道也○
周禮十夫有溝溝上有畛

蕃名パアデーイ

畝手あり手ハ道あり万葉道のよと道の長手と云履
中紀四年掘石上溝又豊後風土記菟名手臣あり

多美増古事記○
即溝渠也

畎亦作畎畎字典疏通流注皆曰
畎○和名鈔引陸詞田中渠也
蕃名コートパンレイストアツクケル

田水園の幾なるは溝ハ田乃を^{タリ}成^ル環^テ樊^{カミ}のおとし書益
稷^ニ澹^ニ畝^ニ澮^ニ距^リ川

奈波天 和名鈔〇
即暇也

田面道

暇說文田兩陌間道也〇廣韻田間道〇禮記疏^暇者謂井
畔相連綴之所造此郵舍田^暇處焉〇吳都賦注^暇謂
地廣道多也舊井
田間有暇有^暇眇

蕃名ハツト

繩手とかちり手ハ道^{ナリ}存^ト田^ハ又^ナ量^ト時^ニ繩^ヲ引^テ
零^ニ所^ノ間^ノ道^{ナリ}あり^ハ故^テ手^ノ手^ハおれ^ハ一^ニ
款^ニ陸奥の^ニ乃^ハ繩^ハ馬^ハさ^ハく^ハり^ハ定^メる^ハの^ハ月^ハ也^{ナリ}

いとらるる

鹽田 濱田 鹽濱

鹵田 事文類聚印
塩田なり

鹽田 木華
海賦

鹽場 明律印
塩濱あり

蕃名ソウトケート

鹽の^ウ涇^ニ土^ニ煮^ニ沙^ニ土^ニ煮^ニ二^ニ柱^ニの^ハ神^ハ始^メか^ハい^ハ一^ニ仙^ニ臺^ニ塩^ニ竈^ニの^ハ社^ハ前^ニ
小^ハ在^ル所^ノの^ハ大^ニ鼎^ニハ^ハ塩^トと^ハ煮^ルの^ハ古^ニ釜^トい^ハつ^テじ^リは^ハ湖^ニ
水^ト汲^テ釜^ニみ^テ煮^ルる^ハ一^ニ尺^ニえ^テる^ハ款^ニ名^ニて^ハ煮^ル
と^ハあ^る人^ハや^ハい^ハく^ハ汲^テ煮^ルは^ハわ^らむ^ハと^ハ先^ニは^ハと^ハ凡^ニ塩^ト
濱^ハ其^ハ賦^ハハ^ハ高^ニ賦^ニふ^ハる^ハの^ハみ^ハや^ハ三^ニ百^ニ步^トと^ハ十^ニ二^ニ枚

と一晝夜百荷の湖ウミ少く塩四十俵と有り淡百枚十人
 手習とつる何方とれおれとつる自然共水ミヅ年早トシ歳
 おて其等則と斟酌とるさふたり西土ハ海邊と地多
 るれハ塩むて少く常ニ雞豚トリの腎ヒモ貯て塩梅とがせり
 故ニ羨ミヤスヒ吸スビとの味甚いぢ〜〜〜食とくはとぬ〜〜
 縄人恒ニ稱する明清律とて續て知包一請度とどに
 水精塩一升と賜ふたゞつらハ大判金解領とどの規模
 かりふ事なり是等とて皇國ミコク人ハ常ニ魚鹽イシホの味ニ不
 足なくつら〜〜〜賜タマヒの恩頼ツコとありおる事れ〜〜
 本藩額娃郡塩屋村は塩土老翁オキナの遺墟イノとて今ニ到り一
 村の民塩と賣と業と〜〜〜毎歳ニ枚聞神社ニ白塩と賣と

其因其塩シホと或曰塩淡ハ其玉の山林よりそ村本新
 今ニ免マクさか也と給タタふ時その淡と減ヘひるきに塩シホ戸ドどもの行つけの爲
 新田ニタ子成ナし塩淡五百石の人ハ田地千五百石入て
 餘何り塩淡シホ多シく入ルおむ故也清土ハ塩淡シホとて軍實
 子備シふ凡ニ福建川ニ官塩シホと載て運ツ傳ツハシ引キちガハシ出
 雙フづハ入ルお常ニ式ニおて昨ノのシ計ニ雙フハシ引キちガハシ出
 石粉シとて一ニ苞ニおて積ツ入ルおのシ摸ツハシ引キちガハシ出
 並ニ極ニ往ルと一ニつクのシ大ニ字ニと手ツ摸ツハシ引キちガハシ出
 大ニ秤ニと仕ルと券ニけテ右ニおて塩シホ官シと秤ニと振ツ也シ者ニ帳ニ令ス
 量ニ入ルお券ニと券ニ加テおて塩シホ官シと秤ニと振ツ也シ者ニ帳ニ令ス
 照シ解スて勤ニ定ニらシ官シと秤ニと振ツ也シ者ニ帳ニ令ス
 市ニ及ビふと申ス人ニ親クと盗シしテ淡ニのシ八ニ葉ニ朝ニ野ニ羣ニ載ル陸ニ奥ニ國ニ
 浮島塩シホ寛シ鳥シ海シ三ニ箇ニ社ニ尺ニゆニ塩シホ枕シのシ浦ニおシ十ニ帳ニのシ面ニ白ニ不ス



陸奥風土記
 曰宮城郡塩
 竈神社圭田
 五十六束所
 祭塩土爺也
 推古天皇
 二年甲子七
 月始
 奉圭
 田行
 神事
 式祭
 等有

彫工坂田全六

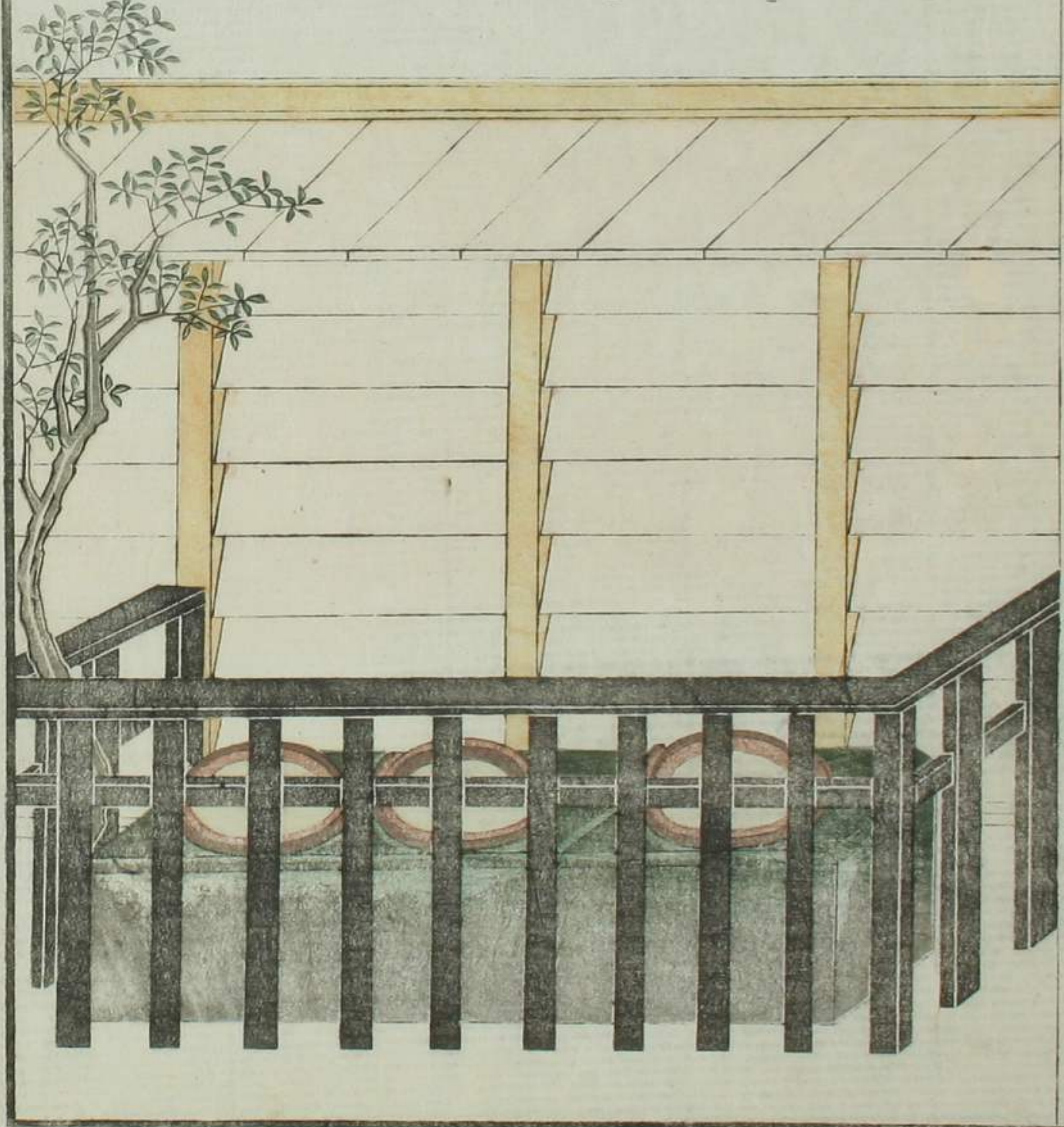


神家
 巫戸
 等凡
 當社
 日本
 无雙
 之勝
 地也松
 島隣塩竈浦
 以為尤右之美
 景矣凡朝吟暮
 嘯之佳境未有
 過之者

成形圖說卷之二

三十八

觀迹聞老志曰
 神竈凡四口在
 南方者二口東
 竈徑四尺八寸
 西竈徑四尺在
 北方者二口東
 者四尺八寸西
 者四尺八寸有
 國殃則釜中水
 色各為變或紫
 或黃或赤或青
 其色不同於是
 恐妖孽之兆而
 祈之
 此水以七月
 十日味爽以
 新水而易舊
 水以此為例



觀迹聞老志曰鹽竈神社在鹽竈村去多賀城址十八町慶
 長十二年黃門君修造之又以貴船亂宮祀于本社東元祿
 六年以武甕槌命為左宮以經津主命為右宮皆南嚮岐神為
 是宮西嚮合稱之為陸奧國一宮正一位鹽竈大明神白石
 源氏曰太古二神男名宇比地迹女名須比智迹宇比地迹
 猶言煮海須比智迹猶言煮鹹也蓋二神始為魚鹽之利以
 贍民用故名宮城郡有美稱則知二郡所祀宇比地迹神是
 也而鹽也彦姬古男女之墟而此地則醜戶所祀因合祀之稱
 鹽竈神社也其有都配以子女神也其別宮猶鹿
 島香取有御子神社乃神之子女若孫亦不可知也

湊田 神樂 沼田 澤田 川田 田 湊田 川田 田
 沙田 經國雄畧沙田俗子耽田乃江濱出沒百姓隨沙漲而田
 田 文獻通考近年瀕湖之地多為軍宗侵據累土增高長
 田 隄彌望名填田又湖田也

大鏡曰純友ハ西國の海オホイカガはい川くそとなく大筏と懸志
ら守るの上ふ土とふせせうとふとたふし四方山の田
と作り住つるまゝたむらるの軍よそくすむくもなく
なりゆくとかくかく構て討てまりをふはいつとまき事
あるとあるかやうに水乃上子田と構ふる事農政全書
まこと尺えつる

塗田 田書○農政全書云夫低水種皆須塗泥然オホイカガ瀕海之地
復有此等田法其潮水所泥沙積於島嶼或墊溺盤
曲其頃畝多少不等上有鹹草叢生候有潮來漸惹塗泥初
種水稗斥鹵既盡可為稼田所謂瀉斥鹵兮生稻糧盈邊海
岸築壁或樹立椿樞以抵潮汎田邊開溝以注雨潦旱則灌
既謂之甜水溝其稼收比常田利可十倍民多以為永業又
中土大河之側及淮灣水滙之地與所在陂澤之曲凡潢汙
涸互壅積泥滓退皆成淤灘亦可種菰秋後泥乾地裂布掃

麥種於上其所收比淤田之効也夫塗田淤田各因潮漲而
成以地法觀之雖若不同其收穫之利則無異也○又青州
府志云海上海原隰之地皆宜稻播種苗出耘過四五遍
即坐而待穫但雨暘以時每畝可收五六石次四五石秋收
見戶春采賀遷得高價可比魚鹽農業全書云斥鹵の濱田
と田地となく潮の氣ぬく後先水稗とて急蠶豆とて急本綿と
急るやハ即ちの塗田法といひあり
凡海灘オホイカガに新田と築展オホイカガは海底に多の大松樹オホイカガと沈て根係オホイカガ
と一柴らとなく巨小石と打累オホイカガて然オホイカガ上小石堤オホイカガと疊オホイカガ
其根と海の方小をく廣く施て上オホイカガぬオホイカガ斜オホイカガに築オホイカガり
て海突オホイカガかどの時濤先オホイカガの沿オホイカガへゆるやうあつオホイカガき終オホイカガるさか
り常オホイカガの如く小壆オホイカガを母オホイカガにけオホイカガさ立オホイカガふバ激浪オホイカガに常オホイカガとて漸
漸オホイカガと石動オホイカガて壞オホイカガるべし因オホイカガていりオホイカガし海オホイカガ色の新田オホイカガは多

く大風津波の時はお蔵されて数万の費と一時は減じ
しと河原備前國岡山の松多明神といふは昔時
津田某が海に沼る地は十萬石の新田を開き一時人柱
かりんは事滴ぐくはりあはたるとは婦
女づりく生て益あさ身なれはては清て人柱となり
て海に入らるるはゆり其新田開りて後地主の神
は初りありと色女崎人傳に記しぬいひ一とわく
係例など國の史より見えぬと縦十萬の田地と得
とくといりて人柱やハ立居る信らるるは河原國
此事と彼國人より二百年前のもや備前の津田三里の

申す津田某新田と築出せし時ハ始新田場より一里許
乃沖に檣とて大索と三重作りて水に大筏端と縦く
に掛あつて壱の壱とて近所の山丘と崩して濱岸を埋め
岩石と架て梁澮と通しあどせし其宵は大索の竹子ハ
さぬぐ州本の枝葉どもおのれと川掛りたるとそま
新田の波打涯に立止しこれハ三里の渚さながら新田と
結ゆしとらとて是にて潮鼻を築きて石堤と築立
しといふ索に舟輪を掛しハ浪をぬかれてあきあき
やうの爲なり又川筋の堤と高くし法所は閘門を他て
其放閉と輾転して上下してあきと括りぬるに今

津田氏ハ左近太と稱シ元禄中人ふ官番頭にて田祿
 三子石と領シ新田成て後其功を賞して加田四子石と
 賜ふ津田をく辭て受む再三及び一くげりば是ま
 で新田乃役と勤る者ども其子石と碩給まがし
 己清し不どにその國りま元行ましつこの津田ハ
 大石良雄乃後弟みて良雄ハ生國体前なまば津田ハ見
 巴がてつるにふりし時津田某據磨ハ陽氣いりつ新田ハ
 勢と向るれハ良雄答ては前よりハ三分らど早く是ハ
 いさといひる津田さまくと合点の解あり信又侍
 耳し者良雄つあし認みて心好ぬるるを津田云
 天日の氣つるつるのハ五穀の種獲とそあてとん五
 穀のおる氣候の速速めて佳ふし良雄もそ事とありぬ
 る人ふハハ稲種之三をなと偽前より子く乘とつり
 と地とつらしとや今是めて室乃早月せふと據磨
 源ましとおおひ合ぬあつるにりの整婦とほ人極み用
 おしあどつらハ認るこまに虚説されハ愛又併記して
 津田氏の宛と駿河風土記子國造伊勢部直来于此梁橋
 雪きくくのこ

海潮之害クシホ鮮聞アサヒ之當時所築島田之堤津機之要障シホ今猶存
 之是むりしと湖防シホ予の道折のづつかしこくをしと
 ろろづしほハ水利のまよふはくいつり

小野
氏藏書

成形圖說卷之二終

